

# 令和5年度在宅介護実態調査 報告書（概要版）

福津市

令和5年8月

# 1 調査の概要

## (1) 調査の目的

在宅で介護を受けている福津市在住の高齢者の日常生活や介護と介護者の状況等を把握し、今後の高齢者福祉計画および介護保険事業計画に活かすとともに、「福津市第10期高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」策定の基礎資料とするため。

## (2) 調査の対象

在宅で介護を受けている福津市在住の要支援1・2及び要介護1～5の認定者

## (3) 調査方法

介護認定調査員または介護支援専門員による聞き取り調査

## (4) 調査期間

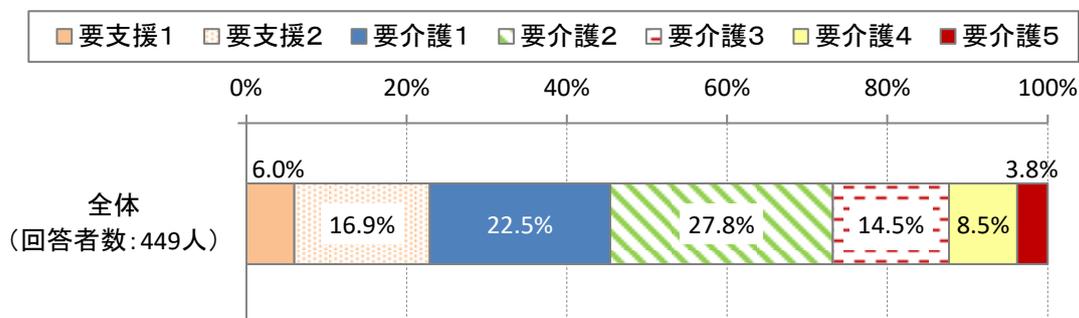
令和4年9月22日～令和5年3月31日

## (5) 回収結果

対象者数	回答者数	回収率
591人	463人	78.3%

※回収463件のうち認定データとの接続ができた件数は449件

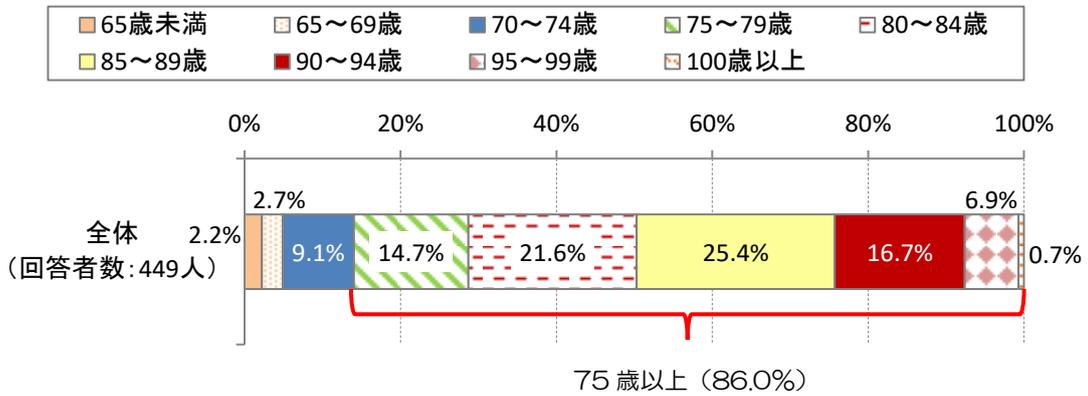
## (6) 回答者の要介護度分布



## 2 回答者の年齢・世帯構成について

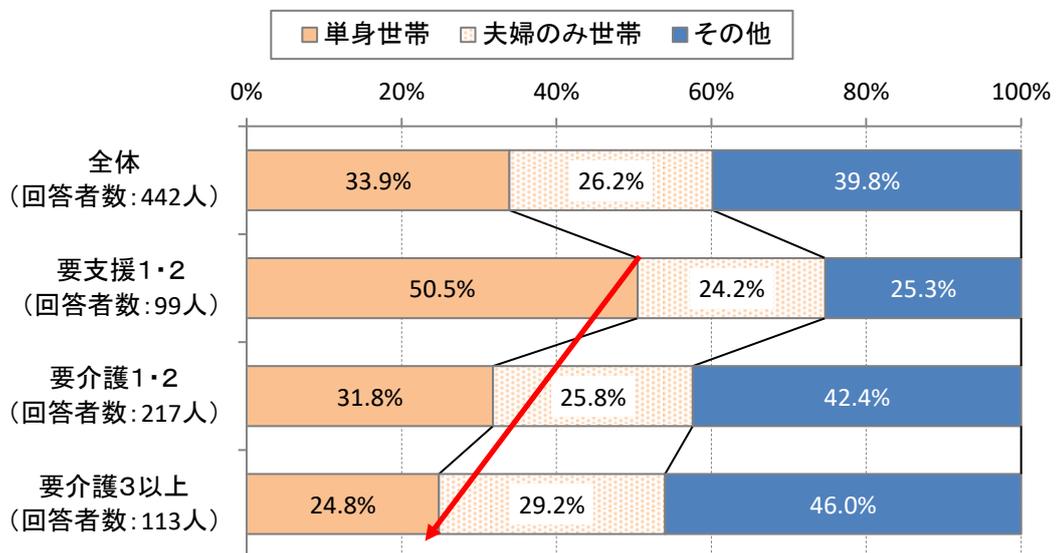
- 75歳以上が全体の86.0%を占めています。

図表1 回答者の年齢



- 世帯構成についてみると、「単身世帯」と回答した人は全体の33.9%となっていますが、要介護度が高くなるにつれて割合が低くなっています。

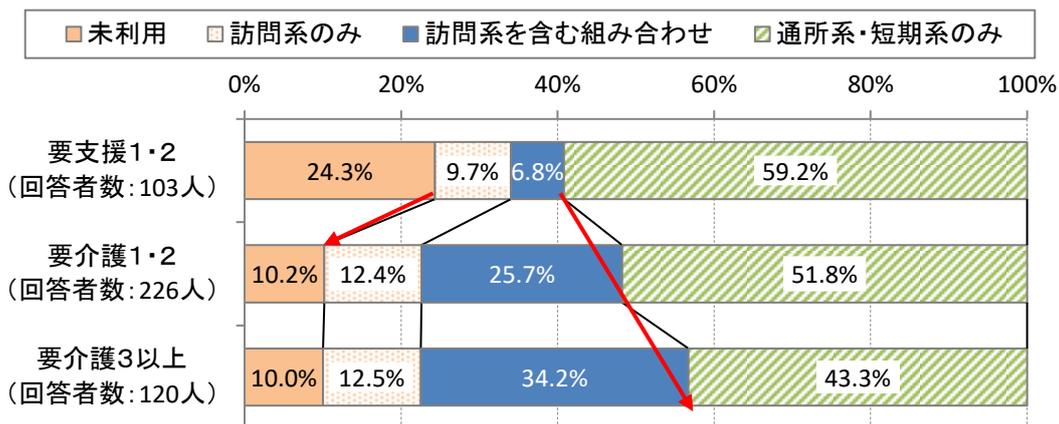
図表2 回答者の世帯構成



### 3 介護保険サービスの利用について

- 要介護度別に介護保険サービスの利用状況を見ると、要支援1・2では、要介護1・2以上と比べると「未利用」の割合が24.3%と、他の区分に比べ高い割合となっています。
- 要介護度が高くなるにつれて、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。

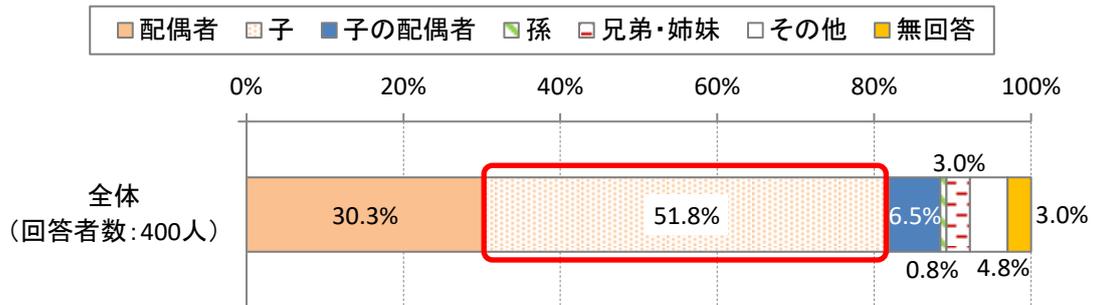
図表3 要介護度別・介護サービスの利用の組み合わせ



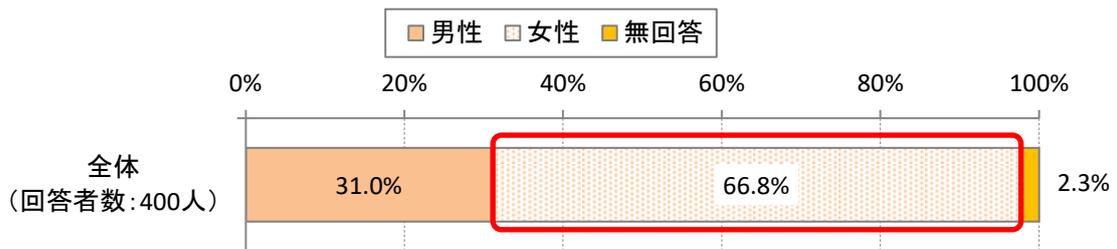
## 4 主な介護者について

- 主な介護者は「子」が51.8%と最も多く、「配偶者」(30.3%)がそれに続いています。
- 主な介護者の性別をみると、66.8%が女性となっています。

図表4 主な介護者（本人から見た関係）



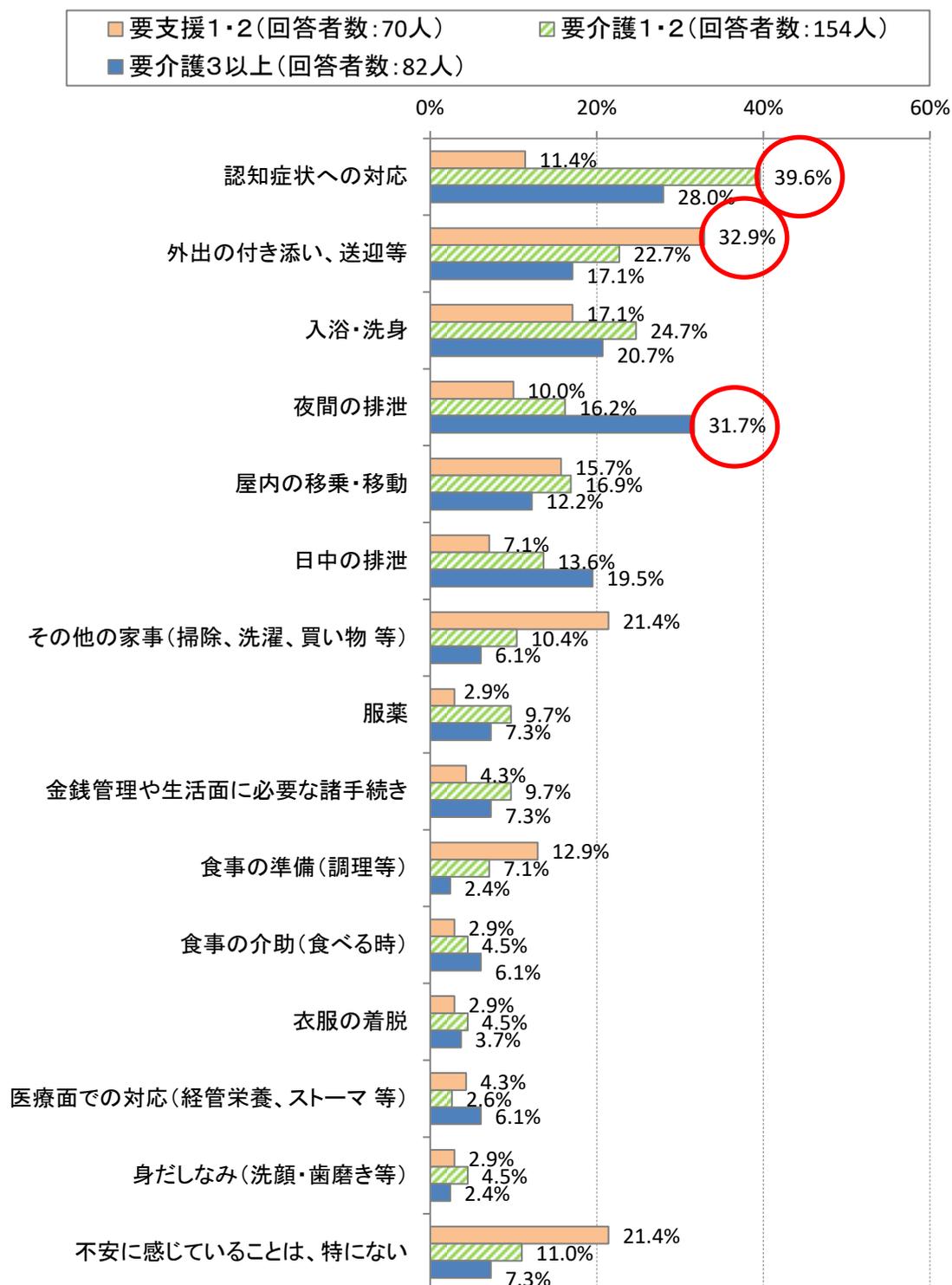
図表5 主な介護者の性別



## 5 介護者が不安に感じる介護について

- 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じている介護等については、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」(32.9%)、要介護1・2では「認知症状への対応」(39.6%)、要介護3以上では「夜間の排泄」(31.7%)が、それぞれ最も高い割合となっています。

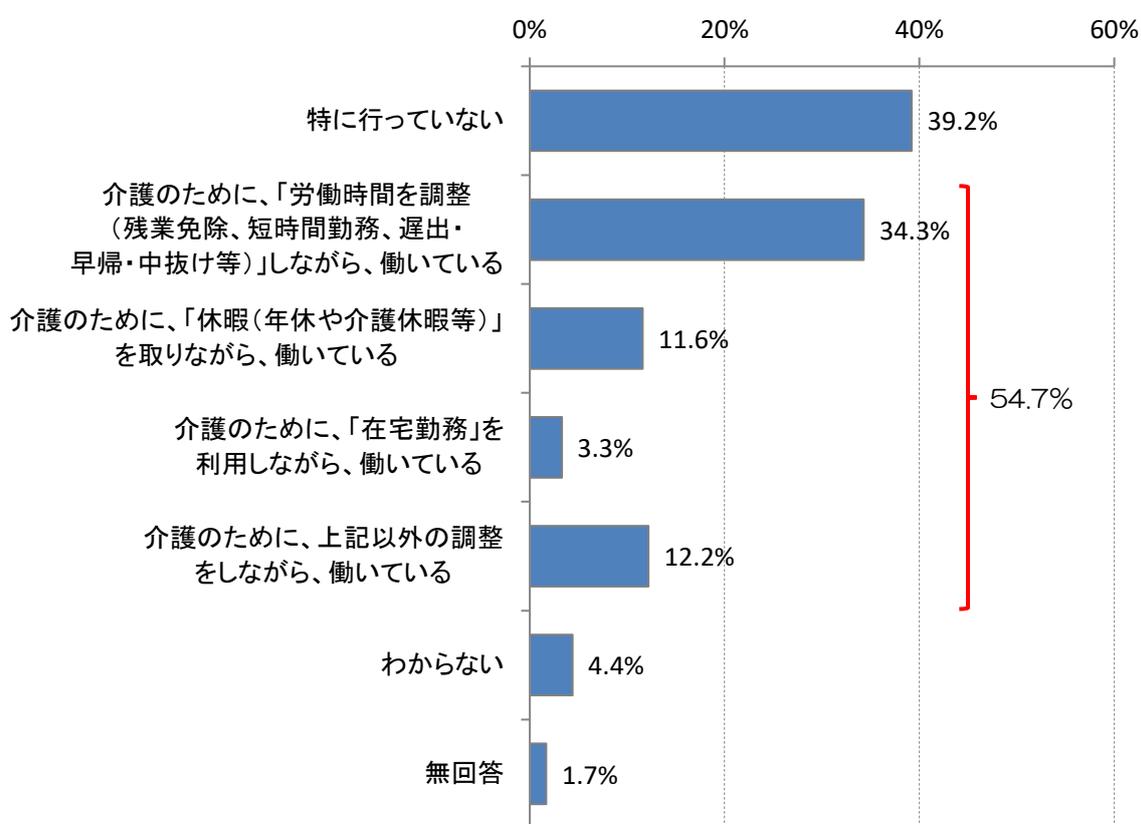
図表6 要介護度別・主な介護者が不安に感じている介護等



## 6 介護者の働き方の調整について

- 主な介護者のうち、フルタイムまたはパートタイムで働いていると回答した 181 人に、介護をするにあたって何か働き方について調整等を行っているかどうかを尋ねたところ、「特に行っていない」と回答した人は 39.2%となっており、何らかの調整を行っている人は 54.7%となっています。
- 調整等の内容としては、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」と回答した人が 34.3%と最も多くなっています。

図表7 主な介護者の働き方の調整状況（フルタイムまたはパートタイムで働いている主な介護者）

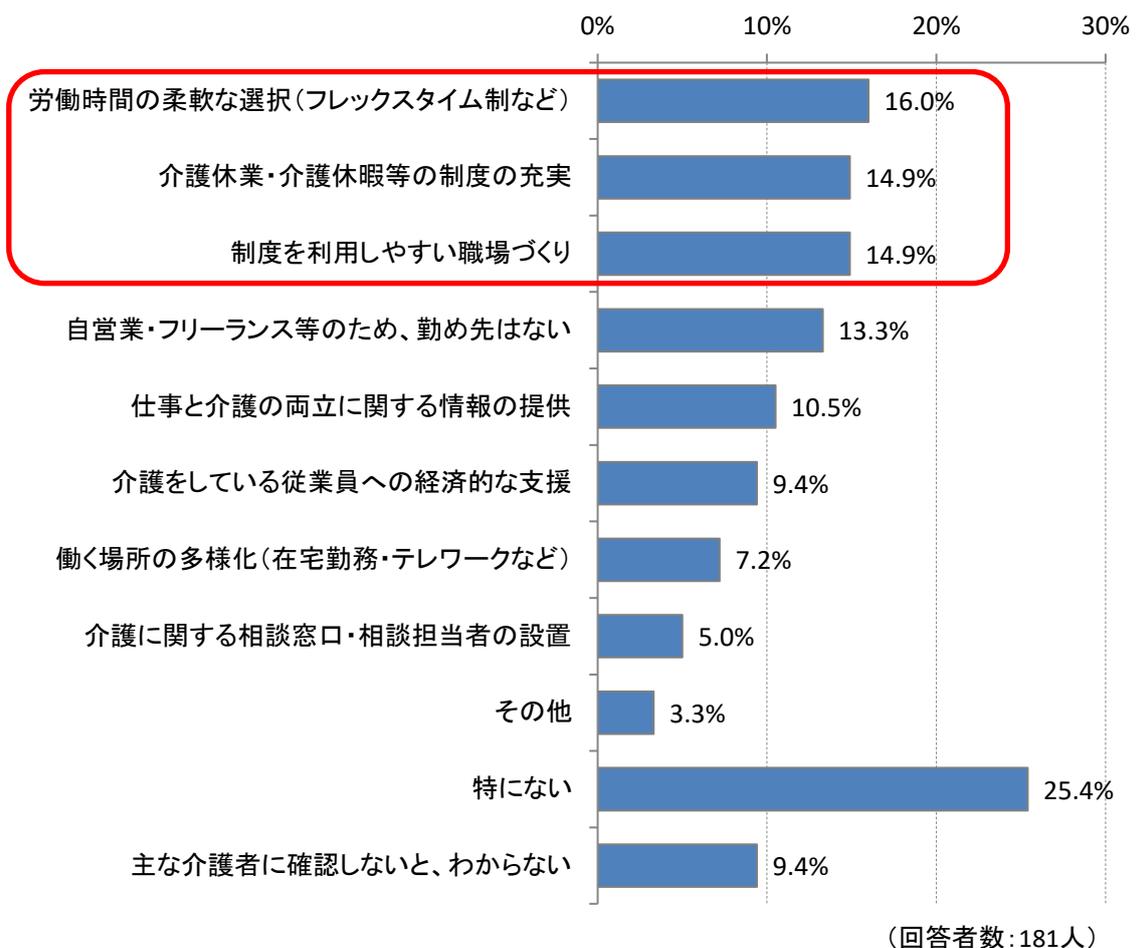


（回答者数：181人）

## 7 仕事と介護の両立に効果があると思う支援

- 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うか尋ねたところ、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（16.0%）や「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「制度を利用しやすい職場づくり」（ともに14.9%）と回答した人の割合が高くなっています。

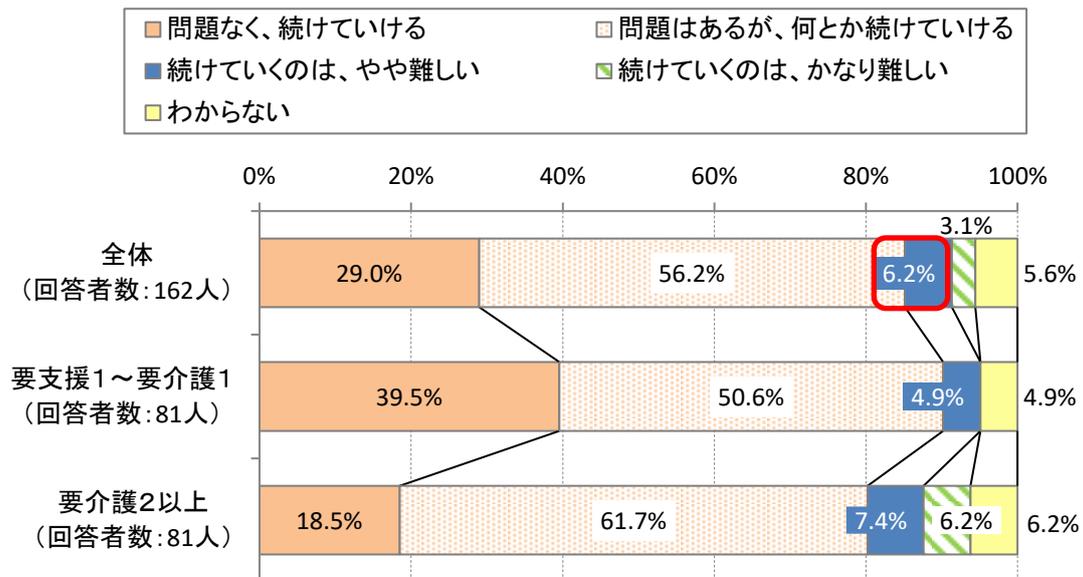
図表8 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援



## 8 今後も働きながら介護を続けていけそうか

- 主な介護者の方に、今後も働きながら介護を続けていけそうかどうか尋ねたところ、「続けていくのは、やや難しい」と回答した人は全体の6.2%となっています。
- 「問題はあるが、何とか続けていける」と回答した人は、全体で56.2%となっています。

図表9 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム・パートタイム）



## 9 調査結果の分析

### (1) 主な介護者が感じる不安の内容

- 介護者が感じる不安の内容を尋ねたところ、介護者不安が最も高いのは「認知症状への対応」であり、要介護1・2では39.6%が不安を感じていることが分かります（図表6）。
- 「認知症状への対応」に加えて「外出の付き添い、送迎等」「屋内の移乗・移動」などの外出・移動支援や「入浴・洗身」「夜間の排泄」「日中の排泄」など、介護者が感じる不安が高い要素をいかに軽減していくかが在宅限界点の向上を図るための重要なポイントになると考えられます。

### (2) 仕事と介護の両立

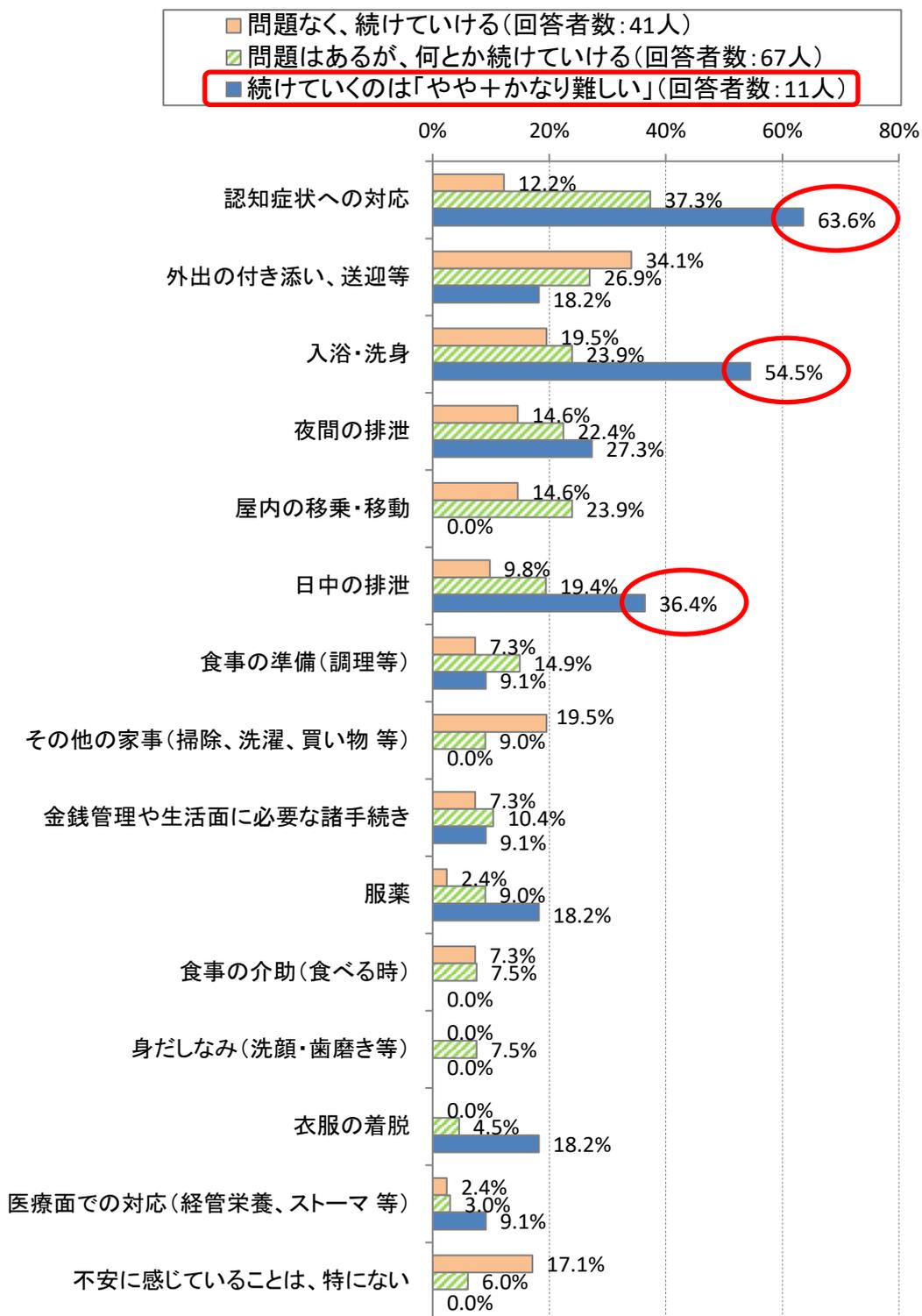
#### ① 就労を「続けていくのは「やや+かなり」難しい」層の不安内容

- 介護者のうち、就業を「問題なく、続けていける」と回答した層は支援ニーズそのものが低い可能性があります。
- 一方、就労を「続けていくのは「やや+かなり」難しい」と回答した層は最も支援ニーズが高く、介護サービスや職場の働き方の調整等を通じて支援すべき主な対象であると考えられます。そして、この層の人たちが特に不安を感じる介護としては、「認知症状への対応」「入浴・洗身」「日中の排泄」が上位にあがっています（図表10）。
- 介護者の就労状況により、家族介護者が関わる介護や不安を感じる介護は異なることから、介護サービスに対するニーズもそれぞれ異なると考えられます。多様な介護者の就労状況に合わせ、柔軟な対応が可能となる訪問系サービスや通所系サービスを組み合わせたり、小規模多機能型居宅介護などの包括的サービスを活用したりすることが、仕事と介護の両立を継続させるポイントになると考えられます。

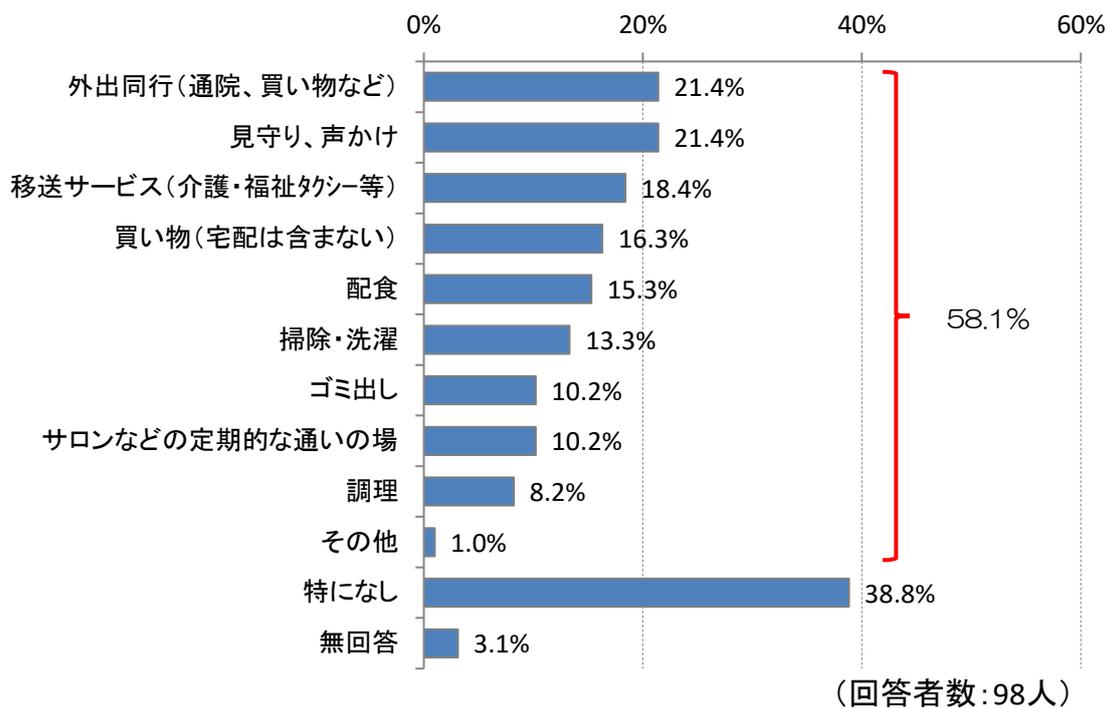
#### ② 保険外の支援やサービス

- 必要と感じる支援やサービスについて、「特になし」と回答した人と、「無回答」の和を除いた58.1%の人は何らかのサービスを必要としており、在宅生活の継続に必要と感じる支援やサービスとして、様々な分野にわたり大きなニーズがあることが分かります（図表11）。
- 一方、調査対象者の60.2%は保険外の支援やサービスを「利用していない」と回答しており、何らかの支援やサービスを利用している人は35.7%に留まっています（図表12より、「利用していない」と回答した人の割合と「無回答」の和を100.0%から除き算出）。
- サービスの利用ニーズと実際の利用との差（22.4ポイント）は、ニーズがあるにも関わらず、保険外の支援やサービスの利用に至っていない領域として位置づけられます。ただし、この領域は潜在ニーズであり、そのすべてが緊急を要するものとは限らないことに留意すべきです。

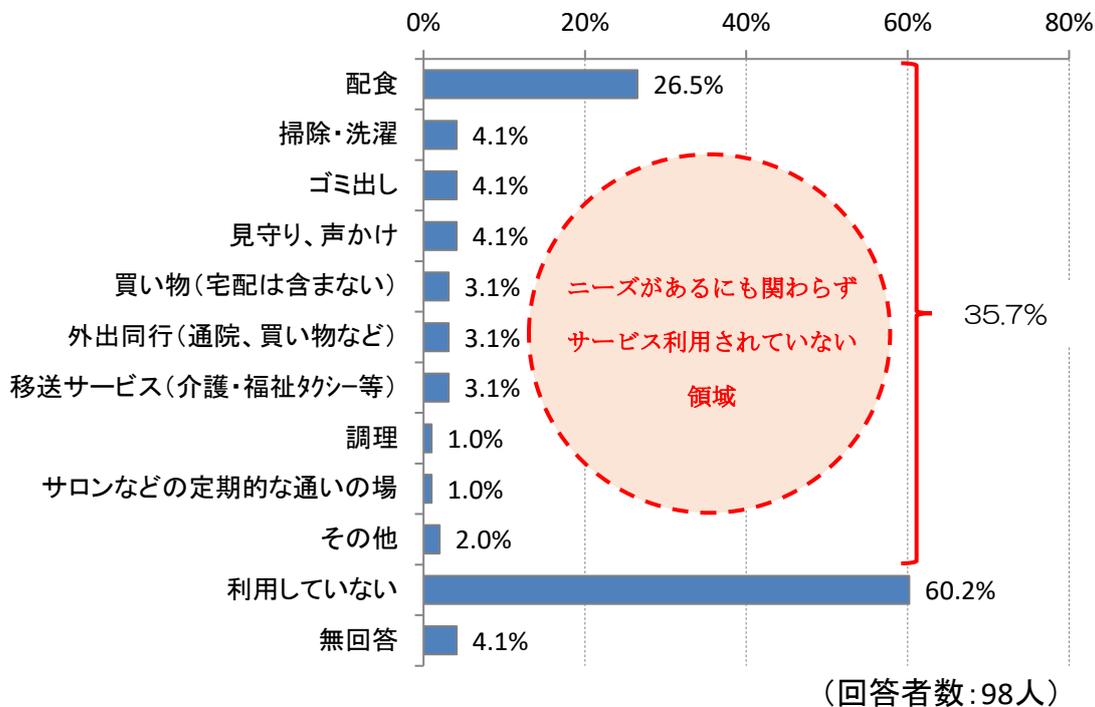
図表10 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



図表11 在宅生活の継続に必要と感じる支援やサービス（フルタイム勤務）



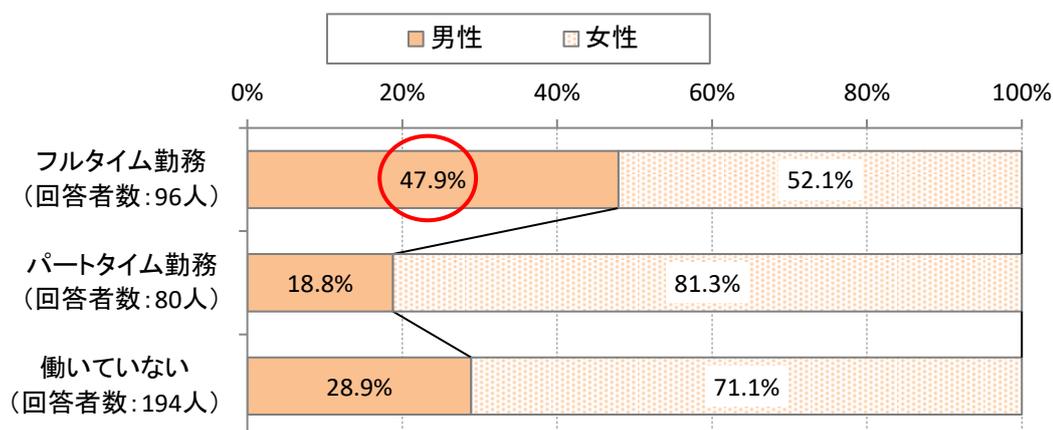
図表12 利用している保険外の支援やサービス（フルタイム勤務）



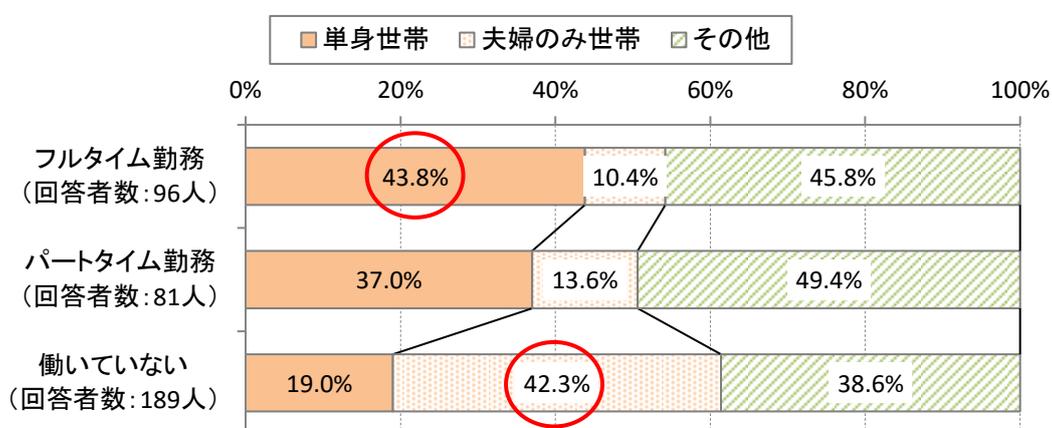
### ③ 男性介護者や単身世帯の要介護者のニーズ

- 就労している主な介護者の属性をみると、フルタイム勤務では男性の介護者が 47.9%であり、パートタイム勤務（18.8%）と比べて高い割合であることが分かります（図表 13）。
- 世帯類型をみると、就労していない介護者は「夫婦のみ世帯」の割合が高い（42.3%）のに対して、フルタイム勤務では「単身世帯」の割合が高い（43.8%）など、介護者の就労形態によって、介護者の属性や要介護者の世帯類型が異なっていることにも注意が必要です（図表 14）。
- 一般に、男性の介護者は食事の準備や掃除、洗濯などの家事が困難な場合が多いことや、介護について周りの人に相談せずに、一人で悩みを抱え込みやすいといった傾向が指摘されています。

図表13 就労状況別・主な介護者の性別



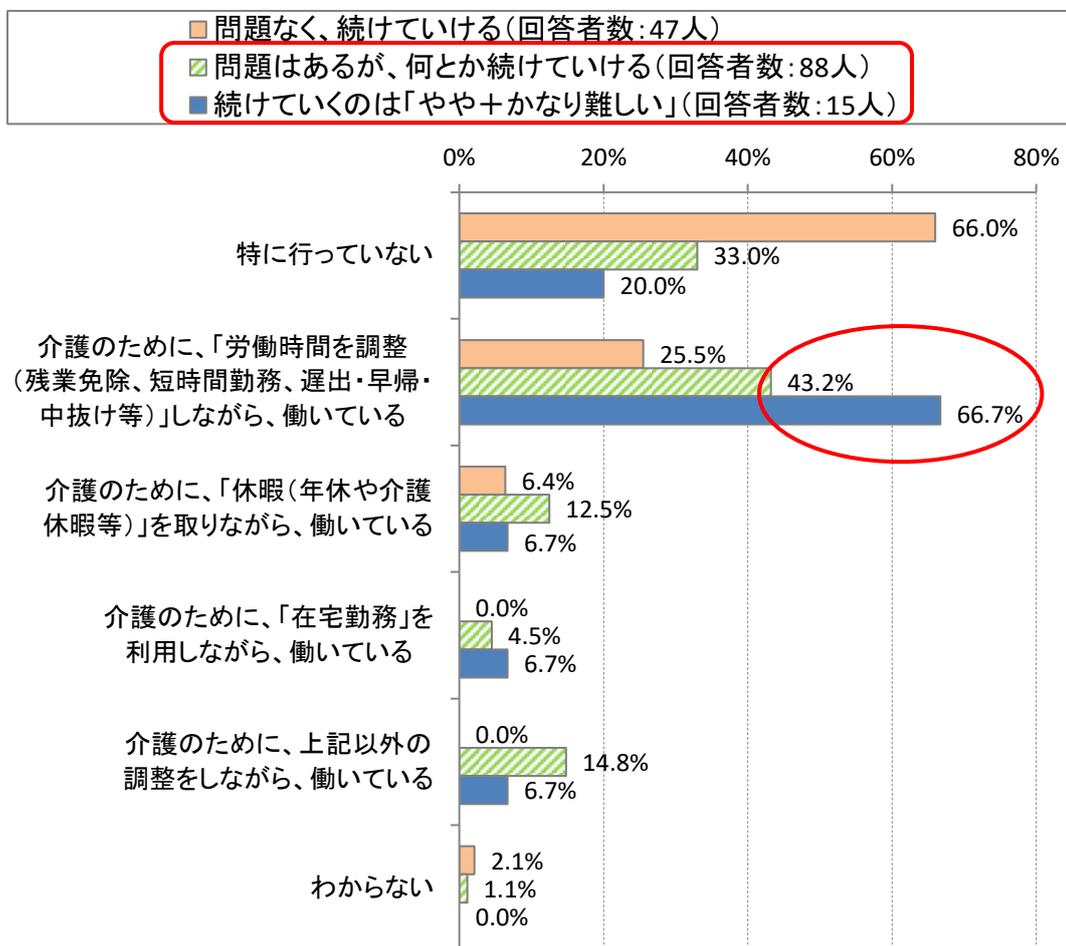
図表14 就労状況別・世帯類型



#### ④ 仕事と介護の両立に向けた、職場における支援やサービスの検討

- 介護のための働き方の調整について、「問題なく、続けていける」と考えている人では、そうでない人に比べて、「労働時間の調整」「休暇取得」などの調整をしながら働いている割合が低い傾向がみられました。つまり、これらの層では、特段の調整を行わなくても、通常の働き方で仕事と介護の両立が可能な状況にあると考えられます（図表15）。
- 一方、「問題はあるが、何とか続けていける」「続けていくのは「やや+かなり難しい」と回答した人は「労働時間の調整」をしている人の割合が高いことが分かります。
- 介護の状況に応じて、介護休業・介護休暇等の取得や、所定外労働の免除・短時間勤務等による労働時間の調整などの必要な制度が、必要な期間、利用できることが重要です。

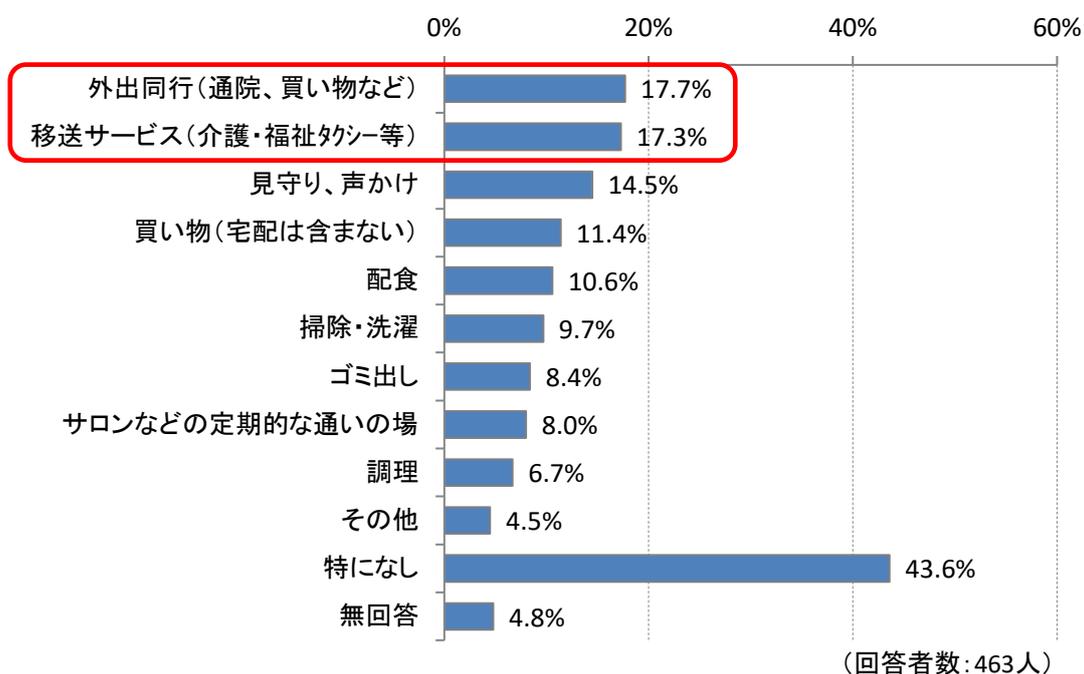
図表15 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



### (3) 保険外の支援やサービス

- 在宅生活の継続に必要と感じる支援やサービスとして「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が比較的多く挙げられています（図表16）。
- 介護者が不安を感じる介護として、「外出の付き添い、送迎等」は比較的高い水準となっていることや、外出に係る支援やサービスは「買い物」「サロンへの参加」等と深い関係があることから、外出に係る支援やサービスの充実は特に重要な課題であるといえます。

図表16 在宅生活の継続に必要と感じる支援やサービス



#### (4) 「単身世帯」かつ「中重度の要介護者」の増加を踏まえた支援

- 単身世帯の80.9%が要支援1から要介護2までの比較的軽度な方となっています(図表17)。
- 現時点では、単身世帯に占める要介護3以上の割合は19.0%に過ぎませんが、今後、「単身世帯」かつ「中重度の要介護者」の増加を見込み、単身世帯の在宅療養生活を支えていくための支援やサービスの提供体制の構築の重要性が増すことが考えられます。
- 訪問系を軸としたサービス利用の増加に備え、訪問系の支援やサービス資源の整備などを進めることが大切になってきます。

図表17 世帯類型別・要介護度

